

地域公共交通の課題と展望

～JR連合地方議員とともに考える地域交通のあり方～

VOL. 18 京都府 福知山市（大橋一夫 市長）

JR連合及びJR西労組は、1月17日、京都府福知山市を訪問し、組織内議員である大橋一夫市長との意見交換を行った。JR連合から中村交通政策部長、JR西労組中央本部から荻山中央執行委員長、宮野政策・調査部長、JR西労組福知山地方本部から西村執行委員長、尾崎書記長が参加した。

■京都府福知山市と、同市における公共交通の状況

京都府の北部にある福知山市は、昭和12年に京都府で2番目の市として誕生し、平成18年の三和町・夜久野町・大江町との合併に至るまで市域を広げてきた。京都市から60km、大阪市からは70kmの距離にあり、JR西日本山陽本線・福知山線をはじめ、北近畿の交通の要衝として栄えてきた中核都市である。

市内中心部に存する「福知山城」は明智光秀が築城した城であり、町並みは城下町の風情を残している。また、かつては国鉄福知山鉄道管理局が置かれ、「鉄道のまち」としても栄えてきた歴史を持つ。そのため、鉄道関連の観光施設もあるが、福知山鉄道館ポップランドは休館となった。最近では「スイーツのまち」としてもPRしており、スイーツを使った販促創出に力を入れている。

人口は、約7.7万人で、微減傾向が長く続いている。隣接する綾部市とで福知山都市圏が構成されているが、製造業などに加え、上述のとおりJR西日本福知山支社が地域経済に大きく貢献している。また、自衛隊の福知山駐屯地が存在し、京阪神と舞鶴港をつなぐ中継地点としての役割を受け継いでいる。

交通状況は、「舞鶴若狭自動車道」が南北に縦断し、市内には福知山インターチェンジが整備されている。さらに国道9号線をはじめ道路網は福知山市中心部から放射状に伸びている。一方、鉄道はJR西日本「山陰本線」「福知山線」、京都丹後鉄道「宮福線」が営業しており、福知山駅を起点に「北近畿ビッグXネットワーク」とも呼ばれている。路線バスは西日本ジェイアールバスをはじめ複数社が運行している。

なお、福知山市は2014年に各自治体とともに北近畿タンゴ鉄道沿線地域公共交通網形成計画を策定し、2016年に福知山市単独での地域公共交通網形成計画、さらには2017年にバス路線の再編に取り組む地域公共交通再編実施計画を策定し、現在実施している。



◀ 福知山市HPより



▲ 名物「どんぶり」はカツ丼などを模したスイーツで人気を博している。

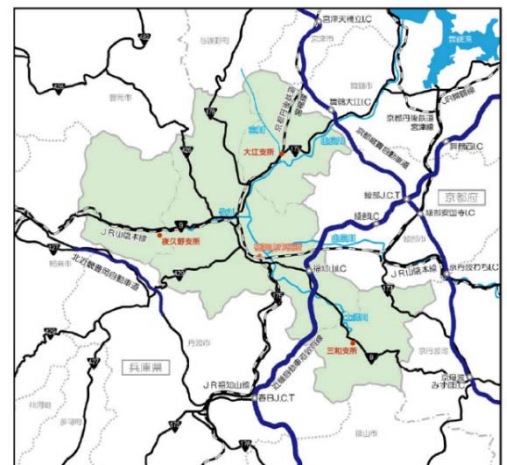


図 福知山市及び周辺市町 主要交通網 (資料: 未来創造 福知山)

▲ 北近畿の交通の要衝として、京阪神の大都市圏と城崎温泉や天橋立といった観光名所をつなぐ。(地図は福知山市地域公共交通網形成計画より)

■福知山市における地域公共交通網形成計画の概要

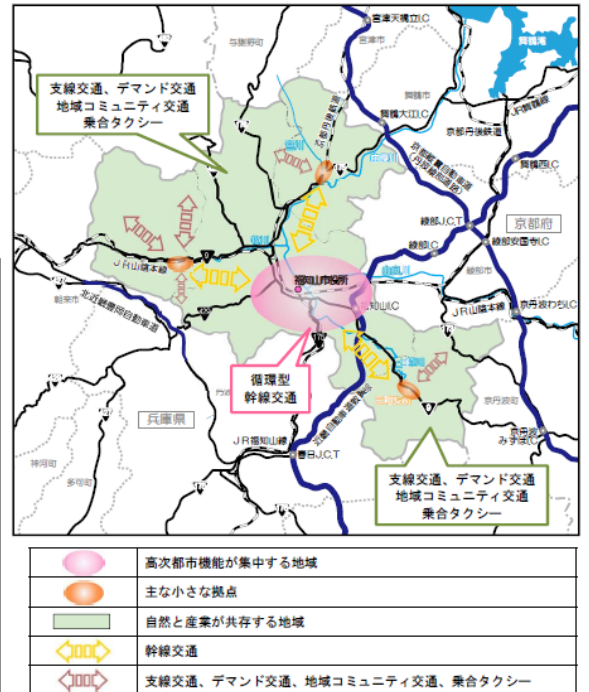
福知山市は「福知山らしくコンパクトな都市」（コンパクト+ネットワーク）の実現にむけた街作り計画などとともに、総合的な公共交通ネットワーク構築のためのマスタープランである「福知山市地域公共交通網形成計画」を2016年に策定した。

計画策定に際しては、路線バスの実態調査や公共交通に関するアンケート調査に加え、関係者へのヒアリングやパブリックコメントによる課題整理がなされている。

その上で、以下のような「あるべき姿」にむけた目標設定を行い、現在計画を実施している。

○計画が目指すべき将来像「あるべき姿」

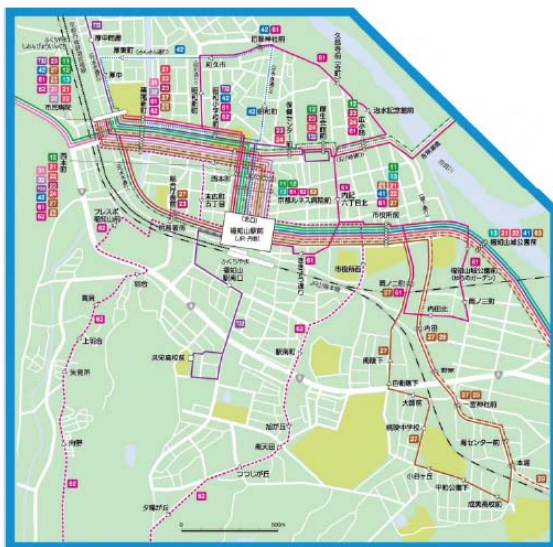
- ① まちづくり、観光振興等の地域戦略との一体性の確保
- ② 地域全体を見渡した総合的な持続可能な公共交通網の形成
- ③ 地域特性に応じた多様な交通サービスの組み合わせの導入
- ④ 適正な財政支援による持続可能な公共交通手段の確保
- ⑤ 市民、交通事業者及び行政など多様な関係者の連携と利用促進



▲ 地域公共交通が目指すイメージ（福知山市地域公共交通網形成計画より）

■福知山市における地域公共交通再編実施計画の概要

さらに、上記の地域公共交通網形成計画に基づき、「地域公共交通再編実施計画」を2017年に策定した。同計画では、市バスや民営バスをはじめとする地域公共交通としてのバス路線の再編、ICTを活用したバス情報発信システムや乗合タクシー事業の実施といった地域公共交通利用円滑化にむけた措置を行うことを掲げて、2017年度から各事業の展開を進めている。



▲ 公共交通再編の実施区域（市街地のみ）（福知山市地域公共交通再編実施計画より）



▲ 公共交通再編のイメージ（福知山市地域公共交通再編実施計画より）

■大橋福知山市長との意見交換

J R 連合及び J R 西労組は、1 月 17 日、福知山市庁舎を訪問し、大橋一夫・福知山市長（J R 連合地方議員団連絡会）と意見交換を実施した。当日は、J R 連合から中村交通政策部長、J R 西労組中央本部から荻山中央執行委員長、宮野政策・調査部長、福知山地本から西村執行委員長、尾崎書記長が参加した。

冒頭、J R 西労組から福知山市に対する要望書を手交し、荻山委員長から J R 西日本と福知山市の連携をさらに深めていくことを要請した。

続いて、中村部長から『「チーム地域共創」をつくる 9 提言』（鉄道特性活性化 P T 最終答申・簡略版）について説明を行ったあと、宮野部長から、手交した要望書について実態を踏まえながら政策課題解決にむけた取り組みを求めた。要望内容は①地域公共交通に関する協議会への参画、②福知山市地域公共交通網形成計画の進捗状況や今後の進め方についての確認、③治水・治水対策の強化、④獣害対策の強化の 4 点で、とりわけ獣害については、鹿・イノシシに留まらず、熊まで出没するといった現状から、命の危険すら感じながら対応していることを訴えた。

その後、相互に質疑を行い、治水に関しては、由良川などの河川における対応とともに内水被害にも注意する必要があることから、対策の難しさについてもご教示いただいた。また、IC カードの導入については、福知山市だけでなく沿線自治体からも強く要望があり、観光需要喚起やシームレスな交通の構築を進め、交通事業者と Win-Win の関係を築いていきたいということが示された。

福知山市は「鉄道のまち」として、さらに J R との連携を強化し、地域公共交通ネットワークの維持活性化とともに、京阪神や日本海側・山陰地方との結節点としての役割も強化していかなければならない。引き続き、大橋市長と連携し、「チーム地域共創」をつくりあげる取り組みを進めていく。また、今後もフィールドワークを通じて得た知見などを、J R 連合としての政策立案と各方面への提言活動に活かしていく。



▲ 大橋市長からは、J R 西労組の政策提言に対して、現状と課題を示していただき、さらなる施策展開につなげていく旨が語られた。

